

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどのひらがなやカタカナを読み書きできるようになった児童が多い。促音、長音、拗音、助詞などの使い方に誤りがある児童がいる。 語彙の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しく読む、書くことよさに触れさせ、全体で確認するだけでなく、個別支援を積み重ねていく。 促音や長音については、遊びを取り入れながら繰り返し指導していく。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 班やクラスの友だちに自分の体験などを話すことが好きな児童が多い。一方で、最後まで聞く、内容を落とさずに聞くなどの力は、まだまだ不足している。 読むことに関する考えの形成が見えづらいところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認のため、話したことを児童に聞く際には、キーワードを押さえ、内容を正確に聞きとっているかを評価していく。 ワークシートやノート、テストだけで評価するのではなく、学習前後に考えがどう変化したかを見取れるよう、学習過程を工夫する。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせを楽しみ、読書に親む児童が多い。 物語文などでは、登場人物の気持ちに入り込み、楽しんで学習に取り組める児童が多い。 自分の考えを意欲的に発表する児童と、そうでない児童の差が出始めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校司書や市の図書館と連携し、読書環境を充実させていく。 自分の言葉で楽しみながら発表したり書いたりする経験を重ね、互いに交流する学習活動を取り入れる。
算数	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 指やブロックを用いて計算を行う児童もいるが、繰り上がりや繰り下がりのない計算は、概ねできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業及び朝学習の時間にプリントや計算カードを使い、繰り返し習熟させる時間を確保する。 日々の宿題で復習させ、定着を図る。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の意味を理解し、正確に式を立てることができるようになってきた。 場面や式に合わせた文章題を作ることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図を用い、文章題の意味や場面を具体的にイメージさせ、自分で考える時間を設ける。 友達が考えた問題を、互いに解き合う学習経験を積ませる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習を楽しみにし、進んで問題に取り組もうとする児童が多い。 1度思考が途切れると、集中して課題に取り組めない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習に対する達成感が感じられるよう、スモールステップの学習過程を組む。 間違いから学ぶ指導を行っていく。
生活	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や体験をもとに調べ学習を行い、似ている所や違いに気付いた結果、興味関心の幅が広がってきた児童が増えていた。 入学前の経験の差や、手先の器用さに個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真絵本や図鑑から得た知識を共有できるよう、年間を通し、学校司書や市の図書館と連携し、学習環境を整える。 指先を使った活動を意図的に取り入れる。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 体験をもとに、自分なりに考えたり工夫したりすることを表現する力は、まだまだあまり育っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識をもった活動や目的意識をもたせた活動を計画し、自分なりに気付いたことを書いたり発表したり交流し合う場を設ける。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人や自然と関わりながら、意欲をもって積極的に活動する児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に育て関わる活動を取り入れることで、身の回りの自然や人を大切にし、そこから得た気付きを次の学びに活かせるよう、価値付けていく。
音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 初めての曲も楽しんで歌う児童が多い。 鍵盤ハーモニカの練習も意欲的に取り組む児童が多いが、音の長さが正しくとれなかったり、タンギングがうまくいかなかったりと、苦手意識をもつ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や行事の歌を取り入れ、毎時間楽しんで歌えるようにしていく。 個別指導を充実させ、少しずつでも積み上げていけるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 入学前(幼稚園や保育園、様々な家庭環境など)の音楽に触れる機会に、個人差がある。 表現力の個人差も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会を通して、色々な楽曲や歌い方、楽器に触れる機会を作っていく。 全身を使った身体表現の機会を設ける。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 歌いながら体全体で表現するなど、楽しんで活動している。 鍵盤ハーモニカなどは個人差があり、演奏に消極的な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの演奏だけでなく、身近な楽器を取り入れ、苦手意識をできるだけ減らし、楽しんで音楽活動ができるようにする。

図画 工作	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育園での経験、家庭環境によって、技能面で個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の活動を単発にせず、繰り返し行うことで、確実に習得させる。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で思いついたり、想像したりすることに苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材とよく関わり、試行錯誤しながら手を動かすことでイメージを膨らませ、制作する時間を多くとる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びを含め、意欲的に活動に取り組もうとする児童が多い。 ・1つの作品が完成するまで、じっくりと取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲をもつ題材を扱い、想いが膨らむような言葉掛けをする。 ・制作の途中も含め、互いの作品の良さを感じとり、交流し合う機会を設ける。
体育	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・マット遊びやかかけっこ、鉄棒遊びなどで基本的な運動遊びができるようになってきた。 ・一部の運動遊びではイメージがもてず、自分の体を上手に操作することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体のイメージや運動の感覚を育てるために、様々な体の動きを経験させる。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で運動を工夫したり、自分に合った運動遊びの場を選んだりする経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した動きをしている児童を称賛し、互いのよさを伝え合う場を設ける。 ・自分の力に合った場を選べるよう、実態に合わせた場の設定をする。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多い。 ・準備や片付けを協力して行う姿が見られる。 ・決まりを守り、安全に気を付けて活動しようとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味を高める活動の場を工夫する。 ・授業規律や用具の準備、片付けの方法や必要性を繰り返し指導する。 ・安全指導を継続して行う。

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書く力に差があり、文章の中で使うことができない児童が多い。 助詞、促音、拗音、句読点など正しく使えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や宿題など、繰り返し学習で基礎基本としての漢字の定着を図る。また、日記や作文など書く機会を増やし、書きなれていくようにする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 物語文にしても説明文にしても読むことは好きだが、読解としての読むことに関する力(特に物語文)が全体的に低い。 読むことに関して、自分の感想や自分の経験に基づいた感想を持てる子が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の日や朝学習の日を活用し、読書の質と量を増やせる機会を増やす。 校内研究ともかかわっていくが、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想を持てるような学習活動を意識しておこなっていく。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 学習に向かう意欲は高い児童が多く、漢字なども未修事項についても積極的に向かおうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の日や朝学習の日を活用し、読書の質と量を増やせる機会を増やす。
算数	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 新しいことを学習しようとする意欲は高く、興味関心をもって算数の学習に取り組むことができる児童が多い。 技能の習得には、時間がかかる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の習得や時計の学習では、繰り返し何度も復習することで定着を図る。 通年を通して振り返りをしながら思い出してできるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを順序立てて説明できる児童もいるが、考えを整理して伝えることができる児童は少ない。 既習を生かして問題を解こうと図や式を使うことが少しずつできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の時間の中で、自力解決の時間を必ず確保することで、自分で考えたことをまとめる習慣を身に付けられるようにする。 交流を通して、友達の考えから自分の考えを広げる時間を持つ。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 進んで自分の考えを発表しようとする意欲的な児童が多い。 向上心をもって学習に取り組んでいる反面、分からないとそこから進めなく止まってしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな答えや考えでも受け入れて安心して発言したり発表したりできる場の雰囲気を作る。
生活	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 自然や社会との関わりには、興味関心が高く、良さや素晴らしさに気付くことができる。集団や社会の一員としての適切な知識や行動は、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物や生き物観察を季節ごとに設定することで、より実感でき、愛着をもち、自然を大切にできる行動を身に付けさせる。 また、地域との生活の中にいることを意識させ、適切に行動する良さを学び、行動できるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃランドや季節の遊びなどでは、自分で工夫したり、より楽しくできるように活動できる。 調べたり、体験することは好きだが、自分のとの関わりの気付きや活動の良さへの気づきが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「町たんけん」では、グループごとに役割を決め、相談したり決定したりする経験を積み、その中で自分自身とのつながりや良さに目をむけさせる。また、調べてきたことを発表することで発信する力を育てる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の成長や身近な人の支えに気付き、意欲をもって振り返る活動を楽しむことができる。体験したことや楽しかったことから自分自身を見つげたり、自分の良さに気づきまではいっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分ものがたり」では、自分の成長や生活を振り返りながら、自分自身を見つめ、自分の可能性や良さに気付き、自信をもって今後の生活を築ける土台作りの基礎を固める。
音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて歌ったり、階名で歌ったりすることは正しくできる児童が多い。 鍵盤ハーモニカの演奏の技能には個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音符、休符、記号や用語について理解させ、音楽における基礎的な技能を身に付けさせる。 鍵盤ハーモニカは繰り返し練習し、階名で歌ったり指番号で歌ったりしながら慣れ親しめるようにし、楽器の基本的な演奏方法を身に付けさせる。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもつことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏の仕方や音の強弱などによる感じ方の違いや、歌詞から感じられる様子を話し合ったりする活動を取り入れ、工夫して表現できるようにする。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 友達と関わりながら楽しく音楽活動をする児童が多く、身の回りの音楽に進んで親しもうとする意欲が高い。 技能があまり身に付いていないために、鍵盤ハーモニカなどの演奏に消極的な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音遊びや即興的な表現など、友達と関わって創造する活動を取り入れ、楽しく学習できるようにする。 合奏などを通して演奏する楽しさを味わえるようにする。

図画 工作	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ、のり、パス、絵の具などの基本的な扱い方は分かっている。 ・完成までの制作過程を理解し、取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テープや筆、カッターナイフ、ステープラー等造形活動に必要な道具の使い方を紹介し、自分の思いに合った表現方法を選べるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや材料などを基に、表したいことを思いついたりつくり方を考える力が育ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、表し方の面白さなどに気付かせるために、自分たちの作品や身近な教材を楽しく見る場や機会を設定し、感じたことを言葉で交流し合わせる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動を楽しむ児童が多い。 ・一つの作品にじっくり取り組む力には、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成までの試行錯誤を楽しめるような時間を確保する。 ・制作途中での鑑賞タイムを設け、友達と交流させる。 ・丁寧に作品を仕上げる楽しさを味わわせる。
体育	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「後ろころがり」「スキップ」といった体を巧みに操作することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに補助運動として様々な動きを経験させる。 ・視聴覚教材を活用し、児童に動きのイメージをもたせる。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのコツを考えたり、表現したりすることができる。 ・教師から提示された遊び方をさらに工夫しようとする姿勢が見られる。 ・自分の課題に合った場を適切に選ぶことが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのコツや、遊び方の工夫について児童が教え合う場をつくる。 ・声かけ集などをつくり、児童が互いの動きのよさを見つけ合うようにさせる。 ・児童に実態に合わせた場を用意し、意図をもって選べるよう指導する。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を進んで楽しもうとする児童が多い。 ・友達と関わり合うことの楽しさを味わっている。 ・遊びのルールや安全のきまりを守ったり、勝敗を受け入れたりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって魅力のある楽しい活動の場を用意する。 ・授業のまとめで、準備や片付け、友達との協力などについて振り返らせる。

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	日記などで相手や場面に応じた言葉を選んだり、言葉を使い分けたりすることに苦手意識もっている児童がいる。	日常生活の中で、相手や場面に応じた言葉を選ぶと文章が伝わりやすいことを日頃から意識させる。
	思考力、判断力、表現力等	自分の考えをまとめるときに、書こうとしたことが明確にならず、考えを書くことに苦手意識もっている児童がいる。	自分の考えのもとになる理由や事例を見つけさせてから感想や考えをまとめる力を身に付けさせる。
	学びに向かう力、人間性	自分の考えを意欲的に発表する児童が多くいる。発表できなくても、友達の意見を聞いて考えをもつ児童もいる。	友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり書いたりする場面を設定し、自分の考えを振り返らせる。
社会	知識及び技能	知っていてすごく興味をもてる児童と知らなく聞いているだけの児童の差がある。	知識・技能は確実に習得するために、各授業時に反復練習で身に付くように指導する。
	思考力、判断力、表現力等	自分の考えを表現したり、うまくまとめられなかったりする児童が多い。また、地図は読めるがそこから発展することが難しい。	児童に「なぜなのか」と問題意識をもたせて、資料を選択して活用しながら理由を考えさせて解決するよう指導する。
	学びに向かう力、人間性	興味をもって取り組んでおり、自分の身近な生活と絡めることができています。	児童に問題をもたせて、体験学習や見学を通して、より自分の身近な生活と絡められるよう指導する。
算数	知識及び技能	計算などの基礎、基本が定着しない児童がいる。単元によって力の差が大きく表れる。	時刻と時間など、日常生活に意図的に結び付けて意識させる。レディネステストを通して既習事項を復習しておく。
	思考力、判断力、表現力等	自力解決で、問題に対して自分の考えをかくことが苦手な児童がいる。	図、絵をつかって自分の考えをかく力を身に付けさせて思考力を高める。考えの補足や価値付けをして学習の理解を深めさせる。
	学びに向かう力、人間性	習熟度別の指導のため、自分の力に沿った学習ができて意欲的に学ぶ児童が多い。	問題を解決する過程も大切なことに気が付けさせ、新たな考えに広げるきっかけを作っていく。
理科	知識及び技能	2年生の頃から観察にも慣れていて、観察力は身に付いている。学習内容も実生活と結びついており、理解することができている。	より知識を定着させるために、教員が児童に教えるべき内容を事前に整理しておく。
	思考力、判断力、表現力等	植物や動物の飼育などにおいて、次どのように変化するのか様々な予想を立てる発想力はあるが、結果から考察をするなど思考力に苦手を感じる児童がいる。	観察や実験の考察・まとめの段階で教員がキーワードを提示し、それをもとに自分なりの言葉でまとめられるようにする。
	学びに向かう力、人間性	学習に対する意欲・関心は非常に高い。しかし、発言等で間違えてしまった後、なかなか立ち直れない児童がいる。	児童の間違いを新たな気付きとして取り上げ、間違ったことで授業の内容が深まったという実感をもたせられるような声かけをする。

音楽	知識及び技能	・今までの授業における知識は理解できているが、実技の技能には個人差がある。	・ICT機器を有効に使用して、反復練習をなど行い、児童に習得させる。 ・リコーダーの技能が追い付かない児童は、個別に声かけをして、指導する。
	思考力、判断力、表現力等	・自分の中で思いをもって表現することはできるが、思いや考えが浅い児童がいる。	・授業の中で教師がたくさん例を示し、児童の中に表現の幅を広げていく。 ・友達の意見や考えを紹介して、様々な考え方を共有させていく。
	学びに向かう力、人間性	・小さなことでつまずいたり、思っていることと違ったことが起こったりすると、意欲をなくしてしまう児童がいる。	・小さな活動の一つ一つほめるようにする。毎回の授業の大きな流れをつくり、途中で意欲をなくしても、また切り替えて児童が臨めるようにする。
図画工作	知識及び技能	・安全にのこぎりや金槌を使って木を切ったりつなぐことができる。技能には個人差がある。	・児童の実態に合った題材を提案し、仕上がらない児童は休み時間等を使って個別指導をする。
	思考力、判断力、表現力等	・表したいことを材料などから発想を広げて工夫して表すことができている。	・導入や授業の流れを工夫して楽しく発想を広げる手がかりをつくり、一人一人の発想の良さを認める。
	学びに向かう力、人間性	・思ったように表現できないと意欲が急に低下してしまう児童もいる。	・活動の合間に励ましの声をかけたり、鑑賞の時間を設け友達同士で認め合えるような雰囲気をつくる。
体育	知識及び技能	いままでの積み重ねにより、ある程度はできてきているが、得意な児童や苦手な児童が分かれる。	感覚作りの運動や体作りの運動を行い、少しずつ種目に慣れさせていって、楽しく運動できるように指導する。
	思考力、判断力、表現力等	児童が自分でどこまでできるか考えたり、チームで作戦を立てたりしようとはしている。	事前に教師が作戦や、レベルを分けた運動の場を用意し、子供に自分はどこが合っているのか考えさせて選択させる。
	学びに向かう力、人間性	体育は好きだが、自分がやりたいだけになってしまい、ルールやマナーを守れない児童が多い。	用具の扱い方や、ゲームを行う際に、チーム同士の挨拶を指導して、スポーツを行うときは相手を尊重する態度を養う。

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	・読み取りや語彙、漢字に関して個人差が大きい。	・文章を読み取る際には、着目する言葉や文、場面や段落のつながりを意識できるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	・読み取ったことに対する感想や自分の考えを書けない児童がいる。	・文章の読み取りを深いものにし、グループでの意見交流をしながら、自分の思いを表出できるようにする。
	学びに向かう力、人間性	・学びに向かう気持ちはあっても、授業中の発言や考えを書く活動で表現できない児童がいる。	・発言することが少ない児童の様子を見取することを意識して授業計画を立てる。
社会	知識及び技能	・表やグラフの読み取りに個人差が大きい。ポイントがずれた読み取りをしてしまう。	・繰り返し読み取りに取り組むことで、ポイントに気付き、正しい知識を習得できるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	・資料から読み取ったことに対する自分の考えを表現できない児童が多い。	・資料提示の工夫をしていく。 ・自分の問題として捉え、自分で答えを出したくなる課題を提示する。
	学びに向かう力、人間性	・身近な学習内容であるため、取り組みは良い。	・体験や見学等を積極的に取り入れ、学習を深められる機会を今後も多くする。
算数	知識及び技能	・基礎学力の低い児童が見られる	・レディネステストの結果などを受け、できないところの底上げをしてから単元を始めるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	・自分の考えを表現できない児童がいる。	・自力解決の際に自分の考えがもてない児童にヒントを与えるなどして、全員が考えをもてるようにする。
	学びに向かう力、人間性	・意欲的に学習する児童もいるが、そうでない児童との差が大きい	・習熟度別学習では、より効果を高められる環境を作る。
理科	知識及び技能	・知識(新しく学ぶ用語)などの定着が弱い。 ・個人で行う実験の際に、よく理解している児童に教えてもらった通りに行うだけで、実際の技能は身につけていない児童もいる。	・教師が、児童に考えさせることと教える(おさえる)ことをきちんと考えた上で授業に臨む。
	思考力、判断力、表現力等	・実験結果は理解できていても、そこから何が言えるか(考察)になると、書けない。	・教師側で発問を工夫し、どこに着眼して考えればよいかをサポートする。 ・キーワードを挙げて考えさせる。
	学びに向かう力、人間性	・実験をやってみたい、生活経験や既習から考えてみようとする意欲はかなりある。	・目を向けるところをさらに絞り、考えを深められるようにする。

音楽	知識及び技能	・今までに学習したことを理解している児童が多いが、技能面において大きく個人差がある。	・ICT機器を有効に使用して、反復練習をなど行い、児童に習得させる。 ・リコーダーの技能が追い付かない児童は、個別に声かけをして、指導する。
	思考力、判断力、表現力等	・自分が表現したい音楽を考え、様々な発想につながられているが、深い思考には至っていないことがある。	・児童が表現した時に、自分の思いを、どのような思いで考えたのか聞いていくことで、表現と思いを一体化させていく。
	学びに向かう力、人間性	・小さなことでつまずいたり、思っていることと違ったことが起こったりすると、意欲をなくしてしまう児童がいる。	・小さな活動を一つ一つほめるようにする。毎回の授業の大きな流れをつくり、途中で意欲をなくしても、また切り替えて児童が臨めるようにする。
図画工作	知識及び技能	・これまでの材料や用具についての経験を生かして安全につくることができているが、技能面では個人差がある。	・新しく出てくる用具や道具は初めに安全で適切に扱う方法を知らせる。
	思考力、判断力、表現力等	・独自の世界を大切にし、発想や構想を広げ、さまざまな思いつきを楽しんでいるが、思いきった表現ができない児童もいる。	・題材やその提示の仕方を工夫し、一人ひとりの発想の良さを適切な場面で認め、全体に紹介するなど工夫する。
	学びに向かう力、人間性	・落ち着いて、意欲的に造形活動を楽しんでいる。平面表現に苦手意識をもっている児童もいる。	・その子なりに工夫して制作しているところを励ます。 ・作品を見合う機会を設定し、感想を共有することで認め合える雰囲気をつくる。
体育	知識及び技能	・これまでの積み重ねによりできる運動は増えているが、特異な児童とそうでない児童の差が見られる。	・小さな運動を取り入れスモールステップで苦手意識をもたずに運動に取り組めるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	・児童に考えさせるレベルの判断に迷うことがある。	・事前に作戦や、運動のレベルを用意しておき、児童がそれを選べるようにすることで思考力を養う。
	学びに向かう力、人間性	・楽しく意欲的に取り組む児童がいる一方、消極的な児童やルールを守れない児童がいる。	・用具の扱いや、チーム対抗時の挨拶などを徹底したり、安全面への配慮を児童が分かるようにすることで安全に楽しく運動できるようにする。

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	・意欲的に漢字の学習に取り組む姿が見られるが、定着する児童としない児童の差がある。また、普段書く文章から語彙が少なく感じる。	・単元の中で出てくる漢字を学習の中でもしっかり取り上げて、新出漢字を定着させる。 ・自主学习などで、意味調べや漢字テスト前の勉強を自主的に行えるような声をかけていくようにする。
	思考力、判断力、表現力等	・自分の考えを学級で交流する時に、積極的な児童とそうでない児童の差が大きい。	・自分の考えと友達の考えを比べて、よりよい考えを見つけさせる活動を増やしていく。また、物語の登場人物の心情の変化を捉える中で、想像を広げすぎて、よりよい考えが分からなくならないように支援していく。
	学びに向かう力、人間性	・新しい学習への意欲があるが、説明文になると最後までやりきるのが苦手な児童がいる。	・単元の初めに、学習活動の流れを分かりやすく児童に明示しながら行う。 ・単元の終わりに。学んだことを生かした活動を取り入れていく。
社会	知識及び技能	・学習したことは概ね理解しているが、定着には課題がある。都道府県など、基礎的な知識が不十分な部分がある。資料の概要をつかむ力は比較的身につけている。	・習得すべき事項を教師が整理して、計画的に指導していく。特に、都道府県の名称と位置は小学校卒業までの習得を意識して反復的に取り組んでいく。
	思考力、判断力、表現力等	・資料から一面的な内容を読み取ることはできるが、複数の事象から複合的、多面的に思考することには課題がある。学習したことを表現することは苦手な児童がいる。	・資料を効果的に活用するために、提示の仕方を工夫する。また読み取ったことを友達と交流したり、別の視点を示すなどして、多面的に読み取れるようにする。
	学びに向かう力、人間性	・学習内容が、身近な地域（東村山市や東京都）から全国に広がっていくので、興味・関心が低下しがちである。	・児童にとって身近な事象を教材として取り上げるなどして、社会を自分ごととして捉えられるようにする。
算数	知識及び技能	・おおむね、計算や作図などの基本的な知識、技能の定着が見られるが、四則計算の定着が十分でない児童もいる。	・個別の課題に応じたプリントを用意し、朝学習の時間を活用して、基礎的な知識技能の更なる定着を図る。 ・レディネステストの結果をもとに、単元の学習に必要な既習事項の習熟度を把握し、個別の支援を行う。
	思考力、判断力、表現力等	・活発に発言ができる児童が多いが、なかなか自分の考えを表現できずにいる児童も少なくない。	・ペア、グループ学習などを用いて、児童が互いに考えを伝え合える環境を作る。 ・ヒントカードを用いたり個別に声掛けしたりするなどして、一人ひとりの児童が自分の考えをもてるよう支援する。
	学びに向かう力、人間性	・学習に向かう意欲が高く、一生懸命に取り組む児童が多いが、学習内容の難しさによって意欲が低下してしまう場面も見られる。	・ICT教材や掲示資料を活用し、児童が安心して学べる環境を整える。 ・児童の発言やつぶやきを生かし、自分の力で解決したという実感を味わわせる。
理科	知識及び技能	・実験や観察を正しく行うことができる。一方で身につけるべき知識の定着が不十分な面がある。	・思考や判断の基となる知識をきちんと習得させるために、授業で取り上げるべき事項を教師が精選する。
	思考力、判断力、表現力等	・実験の結果をまとめることはできるが、結果から考察し、表現していくことは難しい児童が多い。	・学習過程を定型化し、考察して表現する活動を充実させる。 ・考察するときの視点を例示して、多様な考えを引き出せるようにする。
	学びに向かう力、人間性	・実験や観察などの活動には関心をもっている児童が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・課題を設定したり仮説を立てたりすることを苦手とし、自信をもてない児童が多い。	・意欲をさらに高めるために、実験など体験的な学習を意識的に取り入れていく。 ・生活経験を科学的な視点で考察できるよう、身近な事象を授業で取り上げるようにする。

音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習したことは理解できている部分が多いが、技能面においては大きく差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を有効に使用して、反復練習をなど行い、何度も児童に経験させる。 ・リコーダーの技能が追い付かない児童は個別に声かけをして、指導する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの音楽を表現したいとは思っているが、思考の部分が浅く、あまり考えずに表現する児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことをすぐに実行して満足するのではなく、教師側が様々な例を示し、表現の幅広さに気付かせていく。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことに意欲的に取り組み、楽しんでいる。 ・他の児童を手本にできる児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が常に意欲的に活動できるように、教師側が声かけをしていく。 ・友達のよい所を学んで、自分でもやってみよう声をかける。
図画工作	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの材料や用具についての経験を生かして安全につくることができているが、技能面では個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や道具の安全で適切な使い方を適宜確認しながら指導する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・発想力はあるが、自信をもって表現できない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫しているところを全体に紹介したり、それぞれの発想の良さを適切な場面で評価し、自信をもたせる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・完成までの見通しをもてず、集中力が途切れてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げる手立てを工夫したり、活動の流れを視覚化したりして、わかりやすく示す。
家庭	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員だという自覚が芽生えてきて、基本的な技能を身に付けようとしている。一方、生活と結び付けて考えるの難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の中で、より「知りたい」「できるようになりたい」と思うような教材を考えていく。 ・学び合う時間をつくっていく。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして、家庭でも裁縫や料理をしている児童が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活につなげて考えることができるような発問や資料を用意していく。また、児童が生活で生かせるような場をつくっていく。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習が新鮮で、意欲的に取り組む児童が多い。 ・誰かのために役に立ちたいという気持ちを育てていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かしていけるように、具体的に例を挙げていく。
体育	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の技能に差が見られる。 ・体を巧みに動かしたり、自分の体の動きをイメージすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の導入として、感覚づくりの運動を取り入れ、体を巧みに動かす感覚を育てていく。 ・視覚教材を用いて、体の動かし方やポイントを児童にイメージさせる。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのコツや作戦などを表現できる児童がいる一方、なかなか自分の考えを表現できずにいる児童も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きを見る視点や声かけの仕方を明確にし、活発に話し合える土台を作る。 ・学習カードを活用し、練習中に考えたことや気づいたことを表現させる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲の高い児童が多いが、劣等感や恐怖感を感じてしまう児童もみられる。 ・勝敗を受け入れたり、友達と協力したりする姿勢に課題がみられる児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恐怖感や痛みを取り除けるよう、安全面に配慮した場の工夫をする。 ・友達と協力する姿勢や、前向きな発言を積極的に価値づけしていく。

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	漢字や語彙、情報の扱い方等について、習得に個人差が目立つ。	学習した漢字は日常的に使うよう指導する。指導者も新しい語彙や表現を意図的に使用し、「日常化」を促す。
	思考力、判断力、表現力等	読むことの学習における「考えの形成」について、課題がある児童が見られる。	共有の学習を充実させる。互いの意見や感想を共有しながら、内容の広がりや深まりに加え、表現の仕方も認め合えるようにする。
	学びに向かう力、人間性	全体的に関心や意欲が高く、楽しく学ぶ姿が見られるが、最後までやりきることが苦手な児童が見られる。また、読書に向かう様子は、読書旬間等に励行すると読む児童が多い。「進んで」という姿には至っていない。	単元全体の見通しがもてるような導入の工夫をし、「やってみたい」「これはできそうだ」という思いを喚起させる。単元の終盤に、学んだことを活用するような学習を位置づけ、学びの自覚を促すようにする。
社会	知識及び技能	人物や出来事等、正確に覚えることが苦手な児童が見られる。資料から適切に情報を収集する技能が未定着な児童が見られる。	単なる暗記にならないよう、資料と関連付けながら知識を習得できるようにさせる。
	思考力、判断力、表現力等	我が国の歴史の展開について、それぞれの時代の事象を比較したり関連付けたりしながら考えようとする力は概ね身に付いている。	考えの根拠となる資料を明示させる。また、複数の資料を関連付けながら考えを形成するよう指導する。互いの考えやその根拠を議論する場を多く位置づける。
	学びに向かう力、人間性	全体的に高い意欲で学習に向かっている。その一方で、歴史を身近な問題としてとらえることができず、意欲的に学びに向かえない児童もいる。	児童が歴史や政治について、身近な問題として捉えられるような資料を効果的に提示する。「きっとこうだろう」と見通しをもったり、「どうなっているのかはっきりさせたい」という解決の意欲が涵養されるような導入を工夫していく。
算数	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本はおおむね定着している。 自ら数直線を使って、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> レディネステストでできていない既習に関しては、単元に入るまでに復習をしておく。 数直線指導を、どの学年、コースでも指導できるように、校内で指導方法を揃えていく。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 既習を活用して、解決することが苦手。 学習したことの、意味理解ができていない。(概念形成が不十分) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをしっかりともてるような時間の確保をする。(自力解決場面) 公式や方法だけを覚えるのではなく、なぜそのような方法になるのか、根拠をはっきりとさせて考えさせる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に課題に取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違っている考えでも、価値付けをし、より安心して発言したり、考えを発表できたりするようにしていく。
理科	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 知識が定着しづらい。 全員が平等に実験に取り組めていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が「教えること」と「考えさせること」をしっかりと意識して授業を行う。 全員が平等に実験ができるように、実験操作の機会を確保したり、等質グルーピングをしたりする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 実験計画や、予想など自分の経験と結びつけて考えをもてる児童が多い。 一方、何も考えをもてない児童も多数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「マイ仮説」を立て、よりしっかりと考えようという意識をもたせる。 考えを表現する時間を確保できるよう、45分の時間配分に気を付ける。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 自分で実験を考えたり、実験の結果から新たな気づきをしたり、意欲的に学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 結論から次の課題につなげ、学びの連続性をもたせていく。

音楽	知識及び技能	・今までに学習したことは理解できている部分が多いが、技能面においては大きく差がある。	・ICT機器を有効に使用して、反復練習など行い、何度も児童に経験させる。 ・リコーダーの技能が追いつかない児童は個別に声かけをして、指導する。
	思考力、判断力、表現力等	・自分なりの思いを表現したいとは思っている児童が多いが、なかなか自分の思いや意図の実現に結び付かない児童もいる。	・教師側が様々な表現例を示し、児童に多くの表現の幅を示す。 ・児童が表現できたときに、教師側が声かけをして認める。
	学びに向かう力、人間性	・意欲的に取り組む部分はあるが、歌唱に関しては自信がなかったり周囲を気にしたりして、声が小さくなりがちである。	・歌唱の時は小さな声でも教師が前向きな声かけをして、声を出すことに少しずつ自信をもたせていく。
図画工作	知識及び技能	・これまでの材料や用具についての経験を生かして安全につくることができているが、技能面では個人差がある。	・用具や道具の安全で適切な使い方を適宜確認しながら指導する。
	思考力、判断力、表現力等	・独自の発想に自信をもって取りこんでいる。 ・表したいことや材料などの特徴を基に、じっくりと構成を考える力は弱い。	・それぞれの発想の良さを適切な場面で評価し、自信をもたせる。 ・発想や構造が深められるように資料を準備したり、適切な場面で具体的なアドバイスをしたりする。
	学びに向かう力、人間性	・めあてをもって取り組み、意欲的に造形活動を楽しんでいる。準備、片付けなども友達と協力して行うことができている。	・より学びが深められるように、題材を吟味し、準備・声かけ等を工夫する。友達の作品を鑑賞する時間を設け、よさや美しさを感じ取れるようにする。
家庭	知識及び技能	生活体験の差が大きく、知っていることや技能の習得において二極化がみられる。	たくさん縫ったり、調理したりと活動の機会を多くしたり、振り返りを充実させたりして知識の習得や技能の向上を図る。また、保護者の方に依頼するなどしてゲストティーチャーに来てもらうことで技能の定着につなげる。
	思考力、判断力、表現力等	生活と結びつけて考えることが難しい児童が多い。学習したことを実際に生かそうとする児童が少ない。	自分の生活や家庭での活動を振り返る際、様々な意見を聞いたり伝えたりさせて学習の深化を図る。また、自己評価力を向上させることでより正しい判断力、思考力を育むことにつなげる。
	学びに向かう力、人間性	裁縫など既習事項を生かして学習に取り組もうとするなど、作業自体には意欲的に活動する子は多いが、生活と結びつけて考える子は少ない。	課題の与え方を工夫し、相手を意識させた活動をさせることで、目的をもって進んで学習に取り組むことにつなげる。
体育	知識及び技能	・学習の行い方については身に付いている子が多いように感じる。 ・技能の習得については二極化がみられる。	・積み重ねが足りない部分もあるが、基礎的な感覚を迫体験させ、実感のある「できた」につなげさせる。 ・個の技能習得状況に応じた指導が必要である。
	思考力、判断力、表現力等	・比較的クラス全体を考えたり周りを見て学習の仕方を考えたりすることができる児童は多いように感じる。 ・自分の状況を正確にとらえて、練習の方法や場を選んだりすることができる児童は少ない。	・自分の学習の状況を正しくとらえ判断できるよう、担任がしっかりと状況を把握して一緒に選択したり、グループ学習等でコツや技能のポイント等を伝え合ったりして正しい練習方法や場を選択できるようにする。
	学びに向かう力、人間性	・自分が元から好きだったり、できたりする運動については意欲的に取り組もうとする ・苦手なことについては逃げ腰になる児童は多い。	・取り組みやすいように超えやすい課題を段階的に設定したり、失敗を怖がらないような雰囲気づくりに努める。

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<p>○漢字やひらがな、カタカナを正しく書くことや、学習したことを適切に使うことができない。</p> <p>○語彙が少なく、どんな場面においても言葉遣いが話し言葉になりがちである。</p>	<p>○漢字学習に対する意欲が高い児童が多いので、漢字の成り立ちを絵で見せたり、漢字カルタなどのゲームを楽しみながら学べるような、児童の意欲がより向上するような授業を展開していく。</p> <p>○生活指導や道徳の時間を関連付け、相手や目的や意図、場面や状況などに応じて、どんな言葉を選んで表現することが適切であるか判断できるようにする。</p>
	思考力、判断力、表現力等	<p>○自分の伝えたいことを、要点をまとめて話すことが難しい。また、人の話を聞くことも難しい。</p> <p>○文章で自分の思いや、経験や体験したことを表現することが難しい。</p> <p>○話し合い活動では、自分の思いを話すことができても、相手の考えを聞き入れて妥協点を見つけることが難しい。</p>	<p>○単に発表させるのではなく、簡単な発表メモを準備してから発表するようにする。</p> <p>○発達段階にもよるが、各児童の実態把握を的確に行い、その子に合った文量を自分の言葉で表現できるようにする。教員が聞き取り、見本を書いたものを視写することから始め、段階的に進め最終的には自分で考え、作文できるようにする。</p> <p>○少人数での話し合いの場を積極的に設定する。話し合いの仕方や振り返りを行い、スモールステップで活動を進めていく。</p>

学 び に 向 か う カ 、 人 間 性	○読書好きな児童が多い。 ○漢字の学習への意欲は高い。 ○語彙が少ないこともあり、言葉がもつよさについて感じている児童が少ない。	○絵本の読み聞かせや本の紹介などから、文章の表現の仕方や表現の美しさなどを児童が感じられるようにする。 ○自分の思いや経験や体験を文章で表現することや話し合い活動を通じて言葉での関りをもつことによって、言葉を使うことのよさを感じられる指導を行う。
---	--	--

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
算数	知識及び技能	<p>少ない物を数えたり、数字で書き表したりすることはできる児童が多い。しかし数が多くなるとまとまりで考えることができず、数え間違えてしまうことがある。また数の分解や合成ができず、位を意識して正しく数字で書き表すことができない。繰り上がりの無い足し算や引き算は、比較的スムーズにできる。繰り上がりや繰り下がりのある計算は、具体物を使用しないとできない児童もいて個人差が大きく定着も難しい。</p>	<p>たまごのパックで10の補数を考えるようにするなど、児童の生活に根ざした具体物で数を捉え、数の合成や分解をすることができるようにする。また10円や100円など、生活の中で使用するお金を用いて数のまとまりをつくり、位を意識させて大きい数も正しく数えることができるようにする。繰り上がり繰り下がり計算については、そろばん等の具体物を操作しながら計算の仕組みを理解できるようにする。反復学習を多く取り入れ、定着率も高める。</p>
	思考力、判断力、表現力等	<p>問題の意味が正しく理解できず、何を答えてよいのかが分からない児童が多い。答えを導くための計算方法を選択することができず、正しい式が立てられないことも多い。また思考しなければならない場面になると、できないことへの苛立ちを感じてしまうことがある。自信がもてず難しい問題になると、考えることを早い段階で諦めてしまうこともある。さらに語彙が少なく、自分の考えを相手に言葉で伝えることが苦手である。</p>	<p>児童が興味をもてるものや、児童の生活に根ざした問題を設定し思考に対する意欲を高める。パネルシアターでカードをはりながら問題の場面を捉えさせる。絵の多いプリントを提示するなど問題の場面を具体的に捉えられるようにする。さらに個人の力を分析し、実態に合った問題を段階的に考えるようにすることで、自信をもって取り組むことができるようにする。その際に式を立てた理由を尋ね答えさせるなど、自分の考えを言葉で伝える機会も増やす。</p>

学びに向かう力、人間性	時刻が読めなかった児童が、読めるようになってきたことを大変喜ぶなど、できるようになった喜びが大きい。生活の中でなるべく速く、正しく数える方法を考えようとするなど、数学的な考えをよりよい生活のために使おうとする場面は少ない。計算の練習でやり方が分かると意欲的に取り組むなど、自信がもてると学びに向かう力が高まる。	より速い目的地への移動の仕方やより近い目的地へのルートを生活や他の学習の場面で意識させるようにして、数学的な考えを自ら使おうとする気持ちをもたせ、学ぶ力を伸ばす。段階的な個別指導を繰り返し行い自信をもたせると共に、児童が意欲的に取り組める意欲学習過程や教材の工夫を行う。
-------------	---	---